

地域おこし協力隊通信 (No. 29) タンカンじいさん

彼は幼少期にまだ塩造りする家がかろうじてあったという中種子町の南にある集落に生まれ、現在88歳。タンカンの栽培を始めたのは遅いがその経歴は50年近く。今も100本以上のタンカンを生産時以外ほとんど自分1人で酸素吸入器を使いながらも世話をする。調子が良ければ午前と午後には山に入る。しかし、そろそろ90歳、タンカン山を耕作放棄するという。

21歳で鹿屋の保安隊（現在の自衛隊）に入隊した彼は後に東京の警務隊（自衛隊の警察）に移動。その間、特別儀仗隊としても招集される。特別儀仗隊とは国賓に対して最大の敬意を示す儀式を行う隊。

35歳で警務官を退職し東京から帰島、地元の銀行の臨時社員として入行する。40歳でタンカン栽培を兼業で開始。始めた頃は約250本の樹を植える。3年で売り物になる商品を作る予定が10年もかかった。

65歳で銀行を退職してからは校区長や議会議員を歴任。その間、徐々にタンカンの収穫量も増え、ピークの8トンは栽培を始めて三十数年後の80歳目前、

まさにタンカン一筋のころであつた。

肺気腫の治療で在宅酸素療法を始めたのが87歳のころ。タンカンの管理中も鼻に管を入れる携帯酸素吸入が欠かせない。

そんなタンカンじいさんに、剪定の手順を聞いてみた。「今年出た葉には来年に実が出来るから葉っぱとハナシ合いなから切るか切らないかを決める。日の当たる面積を大きくして、光合成が活発にできるよう、どちらかというとなんげど…」

タンカン作りの魅力も聞いてみた。「成長の過程を見るのは好きだが特に収穫前の真っ赤にピカピカ輝き熟れている姿を見るのが一番の楽しみ。見ているだけでも癒される」

今後について聞いてみた。「もう止めようかと決めた最後の実りの年は、なぜか過去一番の豊作。甘みも過去最高。今年で終わろうか続けようか…収穫しやすい立地条件にある樹だけ世話して、あとは放棄か…。樹が続くか人が続くか…」と新たに悩み始めたようだった。

(山村)

日本トップレベルを体感

富士通陸上競技部による陸上教室

2月3日によいらしいきスポーツクラブ、7日に養護学校において、富士通陸上競技部による陸上教室が開催されました。

教室では各年代に分かれ、鬼ごっこや質問コーナー、走り方などの基本的な動き方の指導を受け、日本トップレベルの速さを体験した参加者から多くの歓声が上がりました。

※講師 橋元晃志選手・佐藤拳太郎選手・長田拓也選手



岩岡校区制覇

親子ふれあいスポーツ大会



1月27日に親子ふれあいスポーツ大会『キンボール』が種子島中央体育館で開催されました。

各校区の子ども会17チームが参加し、大きなボールをキャッチしようとして一生懸命プレーしていました。小学生の決勝戦では岩岡校区同士の対決となり、白熱した試合に会場から大歓声があがりました。優勝は小学生、中学生ともに岩岡校区で、圧倒的な強さを見せました。